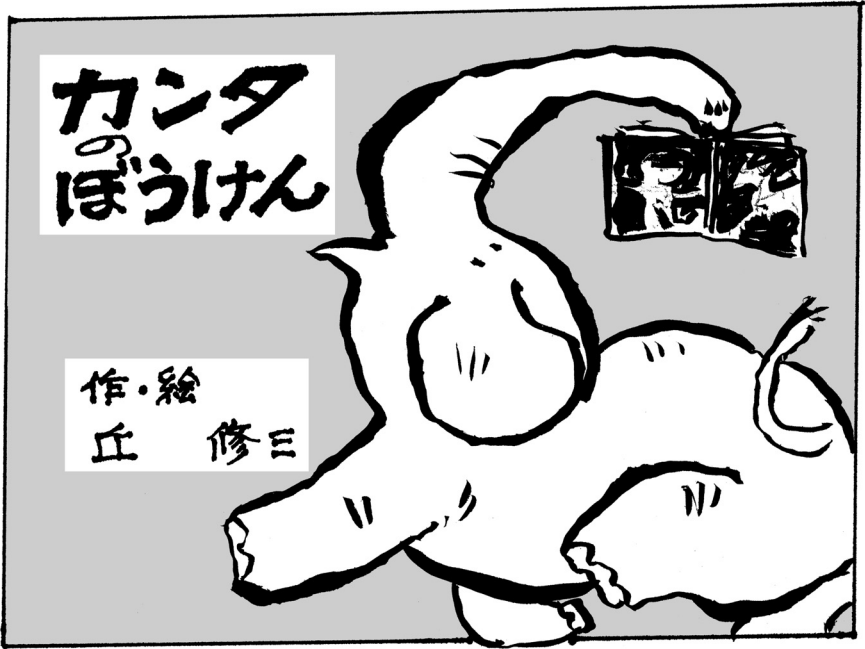


カンタ のぼうけん

作・絵
丘 修三



絵本をよんでいるママの声が、きゅうにふにゃふにゃになってきました。

「どなた、てぶくろに すんでいるのは？」

という、おしゃれギツネのセリフは、あくびといっしょになりました。

「おれもいれておくれ」

はいいろオオカミがやってきたところで、ママの手から、絵本がすっとおちました。

「ママ、ママッたら！」

カンタがいくらゆすっても、ママはお人形さんみたいになって、口をききません。

しかたなく、カンタはもう一つよんでもらうはずだった絵本をひろげました。

「ぐるんばは、とってもおおきなゾウ」

まだ、じがよめないけれど、なんかいもよんでもらったので、すっかりおぼえています。

「ひとりぼっちのぐるんばは、ときどき、さみしいな さみしいなといって、みみをくさにこすりつけたりしました」

よみすすむうちに、カンタの声もだんだん小さくなっていきました。そして、ぐるんばがたびに出たところで、カンタもスーッとねむってしまいました。

「うう、さむい！」